

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：33905

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520084

研究課題名(和文)近代ドイツにおける宗教と出版社の関係についての研究

研究課題名(英文)The Study on the Relationship between Religion and Publishers in Modern Germany

研究代表者

深井 智朗 (FUKAI, Tomoaki)

金城学院大学・人間科学部・教授

研究者番号：40306379

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円、(間接経費) 510,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、近代ドイツ宗教思想史研究に社会史的な視点を導入するために、従来の思想史研究の前提であった「著者-読者」ではなく、「著者-編集者(出版社)-読者」という関係モデルを提示した。なぜなら、近代以後の世界では思想もまた市場化し、編集者、あるいは出版社の媒介なしには、思想を知的市場にもたらし出すことはできなくなったからである。またこのような仕組みの中では、思想を市場に届けるためには、出版社が大きな力をもつようになり、編集者や出版社の思想が、著者に大きな影響力を与えるようになるからである。そのことを近代ドイツの2つの宗教出版社の資料をサンプルに解明した。

研究成果の概要(英文)：The study shows the importance of the author - editor(publisher) - reader model, instead of the author - reader model, which was presupposed in the traditional intellectual history, in order to introduce a sociological perspective in modern German religion - intellectual history. In the intellectual life of the modern world, the market increasingly plays an important role. Hence it becomes harder to disseminate one's thoughts and ideas without the mediation of editor and/ or publisher. This system of modern intellectual life also reveals a greater influence of publisher and/ or editor on author's thoughts. In order to demonstrate this, the study focuses on two modern German publishers dealing with religious subjects.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：宗教学全般 思想史 出版社宗教 プロテスタンティズム

1. 研究開始当初の背景

(1) ヴィルヘルム帝政期の宗教的出版社 (Verlag) と出版人 (Verleger) の研究の動向

ヴィルヘルム帝政期末期からヴァイマル共和国期前期の間の時代に登場した宗教的出版社や出版人の本格的な、一次資料に基づく研究は、C・D・スタークによってなされた、1890年から1933年までのルター派のラディカル・リベラリズム支持の出版社の研究によって開始されたと言ってよい(Stark1981)。とりわけディーデリヒス出版社が、当時の反教会的な神学者たちの著作の出版を援助したこと、また国教会制度批判という政治的なコンテキストの中でキェルケゴールやドストエフスキーの翻訳が続けられたことが解明された。そこで注目されたことは、思想家が書き、出版人が本を売るという分業ではなく、思想家の考えを引き出し、独自の思想と政治性をもった出版人と思想家との共同作業である。

このよう視点からの研究は近年注目され、R・コンラートはスタークの方法をより社会的な方法へと展開し、「宗教出版の政治学」という視点と方法を確立した(Conrad2006)。また申請者はラディカル・リベラリストの思想を「神学部外の神学」と呼び、それを経済的に可能にした「出版社」との関係性を資料に基づいて分析した(深井2008)。

(2) 着想の経緯

申請者は、平成17年度・18年度の基盤研究(C)に基づく研究において、ヴィルヘルム帝政期の社会における宗教の公共性について検討したが、そこで考察されたことは、ヴィルヘルム帝政期の社会の中で、神学思想がどのような影響を持ったのか、ということであった。また宗教系の機関誌や教会の講壇がこの時代の有力なマスメディアであること

を解明した。しかし他方で思想が公共性を持つということがなぜ可能になったのか、ということには注目しなかったし、また思想のコーディネーターであった出版社と出版人の社会的機能にも注目しなかった。

この度の研究では、前回の研究で得た結論のひとつである、「神学的テキストの背後には、それを生み出した社会史的なコンテキストが存在しており、逆に社会的なコンテキストが神学的テキストを生み出す」という命題をさらに展開するために、この時代の宗教の社会的機能の解明を、思想の伝達者としての出版人の視点から改めて試みる。それは今日まだ十分に解明されていない問題であると考えている。

2. 研究の目的

本研究では、以下の3点を中心に研究をすすめた。

(1) ヴィルヘルム帝政期末期からヴァイマル共和国期前期にかけての宗教出版社の分析を、会社の理念、経営者の思想、政治的立場、関係した思想家のプロフィールの調査などの一次資料の検討を経ることで行った。

(2) その中でも特にディーデリヒス出版社が思想的なプロデュースを手がけた神学者たちのテキストの分析、またディーデリヒス出版社が手がけた雑誌『タート』の分析、ディーデリッヒス出版社の編集資料、ディーデリヒス自身の宗教思想の分析と、政治的立場の解明を行った。

(3) この時代の宗教思想の公共性を担うもののひとつとして、宗教関係出版社が競ってなした忘れ去られた思想家たちの全集出版や翻訳、そして教養市民層の教育のために用意された国民的事典類の出版があるが、それらを分析することによって、出版社の宗教学と政治学を分析した。

それによって次のような命題を証明することになる。思想的テキストは思想家が属

する、特定の社会的な集団の中で生み出されるものであるが、近代以後においては、それが公共性をもったり、社会的な広がりや流行を得るためには、その思想をコーディネートする出版人の活動があること、そのことは逆に言えば、出版人の思想や政治性が、出版社の経営の方針になるのであるから、思想の流行は必ずしも思想家の仕事であるばかりではなく、出版人の仕事であること、出版人は極めて強い政治性をもって、思想の流布に貢献し得たこと、とりわけヴィルヘルム帝政期には、出版社が伝統的な宗教制度を破壊するための手助けをした、というものである。

このような視点からの研究は、従来のヴィルヘルム帝政期の神学の研究においては、単純に宗教思想の比較や検討、各学派の思想的立場や政治性の検討が重視されてきたのに対して、思想の流布は学問的な生命力だけではなく、極めて政治的なものに依存していることを明らかにしている。

またこれによってヴィルヘルム帝政期末期に起こったケルケゴールやドストエフスキーの翻訳の流行の社会史的なコンテクストが解明されるし、これらの思想家の流行は思想的な理由からではなく、極めて政治的な理由からであることも明らかになる。たとえばディーデリヒスは上山安敏氏が指摘している通り、「プロテスタント教会の造反たちを意図的に支援したのである」(上山 1987年)。また彼は「教会を破壊してしまうことを助けようとした」のである。しかしその際政治的な理由で反教會的な立場を明確に出来ない出版社は、デンマークの国教会制度を批判し、破壊してしまおうと考えていたケルケゴールやロシアの教会制度を批判して、それを破壊し、直接的に宗教の問題と取り組もうとしたドストエフスキーを翻訳することで、自らの立場を説明していたのである。またある政治性をもった雑誌の発行を引き

受けた、という事実の中にもその立場を読みとることができることを解明することになる。それは出版人の「隠された神学」であり、それは思想家の思想よりも明確で、鮮明で、政治的であることが本研究によって解明される。

3. 研究の方法

本研究では、ヴィルヘルム帝政期末期からヴァイマル共和国期における宗教出版社の神学と政治学を資料に基づいて、またその時代の社会的動向をふまえて解明した。そのために一方で、一次資料の収集と統計的な分析を行い、他方で、資料の宗教学的、また政治的解読を行った。

その際以下の作業を、手順を追って行った。

(1) なぜこの時代の出版人や出版社がラディカルで、反社会的でもあった思想家たちの書物を出版したのかという問いに、統計的に(雑誌や出版物、事典や全集の分析)答え、また具体的なテキストの分析のみならず、思想家の背後にある「隠れた宗教学」を分析することで、宗教学的、政治学的にも考察した。

(2) この時代の宗教出版社のデータを整理、処理し、今後の研究のための資料として公開する準備を終えた。

初年度と二年次前半では、今日では入手困難であり、また所在が不明になっている一次資料の収集にあたり、同時にその資料の分析と解読を行う。そのために初年度と二年次前半は既に了解を得ている資料館、図書館との連携のもとに調査、資料収集を行い、二年次後半と三年次はその整理のみならず、資料の保存と公開、研究成果の発表を行った。

4. 研究成果

本研究では、近代ドイツ宗教思想史研究に社会史的な視点を導入するために、従来の思想史研究の前提であった「著者 読者」ではなく、「著者 編集者(出版社) 読者」とい

う関係モデルを提示した。なぜなら、近代以後の世界では思想もまた市場化し、編集者、あるいは出版社の媒介なしには、思想を知的市場にもたらし出すことはできなくなったからである。またこのような仕組みの中では、思想を市場に届けるためには、出版社が大きな力をもつようになり、編集者や出版社の思想が、著者に大きな影響力を与えるようになるからである。そのことを近代ドイツの2つの宗教出版社の資料をサンプルに解明した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計14件)

深井智朗、ブルトマンは脱政治的神学なのか、日本基督教学会北海道支部公開シンポジウム記録、査読無、第3巻、2013、1-36

深井智朗、パウエル・アルトハウスと保守革命、金城学院大学論集 人間科学編、査読無、2013、第9巻2号、120-132

深井智朗、二人の亡命知識人の運命 パウル・ティリヒとトーマス・マンの間で交わされた四つの書簡について、思想、査読無、2013、9号、53-80

深井智朗、絶対他者としての神 ヴァイマルの聖なるフロント世代における「存在と言語」、『共生学』、査読無、8巻、2013、22-39

深井智朗、パウエル・ティリヒ「ハイデガーとヤスパース」解題、みすず、査読無、55巻9号、2013、12-28

深井智朗、一九五八年に行われていたパウエル・ティリヒへのインタビュー、『福音と世界』、査読無、68巻11号、12号、2013、44-47、38-55

深井智朗、1913年のルドルフ・ブルトマン、金城学院大学論集 人文科学編、査読無、第9巻第2号、2012、52-78

深井智朗、編集者アルベルト・レンプの死を悼む手紙 ミュンヘンの神学的アヴァンギャルドとしてのゲオルク・メルツとクリ

スティアン・カイザー社、聖学院大学総合研究所紀要、査読無、52号、2012、209-240

深井智朗、ゼラ・クライスとヴァンダーフオーゲル オイゲン・ディーデリヒス社とヴィルヘルム期の教会外のキリスト教、金城学院大学論集 人文科学編、査読無、第9巻1号、2012、64-85

深井智朗、「倫理が政策と時、ルター派の義認の教理は正しく理解されるのです」文化プロテスタンティズムと神学的アヴァンギャルド、青山総合文化政策、査読無、4巻2号、2012、267-293

深井智朗、聖なる政治的精神と絶対他者としての神、理想、査読無、688号、2012、2-14

深井智朗、なぜ神学者ナウマンが『中欧』を書いたのか 神学的でも社会主義的でもないが、「ドイツ・ルター派的」な政策、思想、査読無、1056号、2012、195-224

深井智朗、オイゲン・ディーデリヒスと神学的表現主義、日本の神学、査読有、50号、2011、74-99

深井智朗、ニューヨークの亡命知識人パウエル・ティリヒと京都の神学者有賀鉄太郎-有賀鉄太郎所蔵のパウル・ティリヒ著『社会主義的決断』(一九三三年)をめぐる、日本研究、日本国際文化研究センター、査読有、第45集、2011、139-154

[学会発表](計5件)

深井智朗、ドイツ出版平和賞におけるパウエル・ティリヒ、日本基督教学会学術大会、2013年9月11日、西南学院大学

深井智朗、パウエル・ティリヒとナショナル・コンサーヴァティヴ、日本宗教学会学術大会、2013年9月8日、國學院大學

深井智朗、ブルトマンは脱政治的神学なのか、日本基督教学会北海道支部会、2013年6月1日、北海学園大学

深井智朗、1930年代のルドルフ・ブルトマン、日本基督教学会関東支部会、2013

年 3 月 22 日、東京女子大学

深井智朗、1913 年のルドルフ・ブルトマン、
日本宗教学会学術大会、2012 年 9 月 6 日、皇
學館大學

〔図書〕(計 4 件)

深井智朗、法政大学出版局、ティリッヒと
フランクフルト学派 亡命・神学・政治、2013、
326

Tomoaki Fukai, de Gruyter, Paul Tillich-
Journy to Japan 1960, 2013, 234

深井智朗、新教出版社、神学の起源 その
社会的機能、2013、227

深井智朗、岩波書店、ヴァイマルの聖な
る政治的精神、2012、386

6 . 研究組織

(1)研究代表者

深井智朗 (FUKAI, Tomoaki)

金城学院大学・人間科学部・教授

研究者番号：40306379